

- 問1 日本の地形について述べた記述のうち、日本最高峰である富士山の標高として正しい数値を選択してください。（2022年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 4,058m | 2. 1,982m | 3. 3,776m | 4. 8,848m |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
- 問2 九州地方中部、熊本県の阿蘇山周辺で見られる地形について、その形成の過程と土地利用の説明として最も適切なものはどれかを選んでください。（2018年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 氷河による浸食によって形成された複雑な入り江であり、水深が深いため天然の良港として利用されている。 | 2. 河川が運んできた土砂が河口付近に堆積してできた低地であり、水田稲作が盛んに行われている。 | 3. 火山活動による陥没で形成された大きなくぼ地であり、その内部には集落や農地、鉄道などが広がっている。 | 4. 火山灰が長期間にわたって堆積してできた広大な台地であり、水持ちが悪いため主に畑作が行われている。 |
|--|---|--|---|
- 問3 地形図において土地の起伏を読み取る際、等高線の描かれ方とその地形の特徴について正しく説明しているものはどれか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 等高線の間隔が広い場所は、崖などの切り立った地形である。 | 2. 等高線の間隔が狭い場所は、周囲よりも標高が低い窪地である。 | 3. 等高線の間隔が狭い場所は、傾斜が急な斜面になっている。 | 4. 等高線の間隔が広い場所は、傾斜が急な斜面になっている。 |
|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
- 問4 日本の太平洋側の気候について、夏季にあたる6月から9月にかけて降水量のピークが見られる主な要因として、最も適切な組み合わせを選びなさい。（2024年 福井県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 南東の季節風と台風の影響 | 2. 北西の季節風と低気圧の影響 | 3. 対馬海流による湿った空気の流入 | 4. シベリア高気圧と梅雨前線の停滞 |
|-----------------|------------------|--------------------|--------------------|
- 問5 冬の季節風が日本海側で雪を降させた後、日本列島の山脈を越えて太平洋側に吹き下ろす際、太平洋側の気候にはどのような特徴が見られますか。（2021年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 日本海で蓄えた水蒸気により、太平洋側でも積雪が多くなる | 2. フェーン現象によって、冬でも夏のような蒸し暑い気候になる | 3. 山脈で水分を失っているため、乾燥した晴天の日が多くなる | 4. 季節風がさえぎられるため、湿った空気がとどまり雨が多くなる |
|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
- 問6 瀬戸内海沿岸の地域における降水量の特徴について、日本海側の地域と太平洋側の地域と比較した説明として正しいものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 日本アルプスに遮られた中央高地と同様の気候であり、冬の寒さが厳しく、夏にのみ集中的に雨が降る。 | 2. 日本海側のように冬に降水量が増えることも、太平洋側のように夏に降水量が増えることもなく、年間を通じて降水量が少ない。 | 3. 黒潮の影響を強く受けるため、太平洋側の地域と同じように、夏から秋にかけての降水量が日本で最も多い。 | 4. 対馬海流の影響により、冬の降水量は日本海側の地域とほぼ同じ水準になるが、夏の降水量は極端に少ない。 |
|--|---|--|--|
- 問7 長野県などの山々に囲まれた地域（中央高地）では、夏と冬の気温差や昼と夜の気温差が非常に大きくなり、年間降水量が少なくなる傾向があります。このような気候の特徴が生じる地理的な理由として最も適切なものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が山を越えて吹き込み、冬に大量の降雪をもたらすから | 2. 一年を通じて偏西風が強く吹き抜けるため、低気圧や前線が停滞しにくく乾燥した空気が保たれるから | 3. 周囲を高い山々に囲まれているため、湿った季節風が遮られ、熱がこもりやすい盆地特有の地形であるから | 4. 暖流である日本海海流（対馬海流）の影響により、年間を通じて雲が発生しやすく日照時間が短いから |
|---|---|---|---|
- 問8 小樽（北海道）、松本（長野）、敦賀（福井）、延岡（宮崎）の4都市の気候データを比較したとき、松本市の統計に最もよく当てはまる状況を次の中から選びなさい。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 1月の平均気温が0度を下回り、かつ月ごとの降水量が年間を通じて100mm前後で安定して少ない。 | 2. 1月の降水量が200mmを超え、冬の時期に年間で最も多くの降水（降雪）が記録される。 | 3. 年間降水量は1500mm程度であるが、冬は乾燥し、夏から秋にかけて降水量が集中する。 | 4. 8月の平均気温が25度を超え、年間降水量が2500mmに達するほど雨がが多い。 |
|--|---|---|--|
- 問9 山間部を流れる河川において、土石流による被害を軽減するために設置される「砂防堰堤（さぼうえんてい）」の役割として、最も適切な説明を選びなさい。（2023年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|------------------------------------|
| 1. 火山の噴火時に発生する高温のガスや火山灰が、高速で斜面を流れ下るのを完全に遮断する。 | 2. 地震の揺れによって地下水と砂が噴き出す現象を抑え、地盤が軟弱になるのを防ぐ。 | 3. 上流から流れてくる土砂を一時的にためたり、流れの勢いを弱めたりして下流の住宅地を守る。 | 4. 河口付近で海水の逆流を防ぎ、塩害による農作物の被害を防止する。 |
|---|---|--|------------------------------------|
- 問10 ある沿岸地域の防災計画において、地形図上で等高線の間隔が広く、標高が低い海岸近くの集落に津波避難タワーを建設することになりました。この地域の内陸側には標高の高い山地が存在しているにもかかわらず、あえて平地にタワーを建設する理由として、背景にある考え方を最も適切に説明しているものはどれですか。（2025年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 地震による液状化現象が発生した際に、地盤が不安定な山地よりも、平地のタワーの方が構造的に安定しているため。 | 2. 地形図において等高線が密な場所は浸水のリスクが最も高いため、避難場所としては不適切であると判断されるから。 | 3. 津波が到達するまでの限られた時間内に、標高の高い山地へ移動することが困難な住民の安全を確保するため。 | 4. 平地の中心部にタワーを建てることで、津波のエネルギーを分散させ、内陸の山地へ押し寄せる波の勢いを弱めるため。 |
|--|--|---|---|
- 問11 鹿児島県の桜島周辺など、活発な火山活動が見られる地域において、過去の自然災害による被害状況や避難の教訓を後世に伝えるために設置されている記念碑を何と呼びますか。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 雪崩注意記念碑 | 2. 液状化防止観測碑 | 3. 火山災害伝承碑 | 4. 洪水氾濫記録碑 |
|------------|-------------|------------|------------|
- 問12 日本の大動脈である東海地方において、東名高速道路と並行するように新東名高速道路が整備されています。このように、既存の路線と並行して新たな路線を確保する「ダブルネットワーク化」を進める最大の目的は、防災の観点からどのような事態を回避することにありますか。（2022年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 路線の分岐点が少ないことで、沿線の工業団地から港湾への所要時間が大幅に遅れる事態 | 2. 大型トラックの通行量を分散させることで、路面の摩耗による修繕費用が増大する事態 | 3. 観光客向けの休憩施設が不足し、特定の地点で交通集中による大規模な渋滞が頻発する事態 | 4. 大規模な自然災害が発生した際、一方が通行不能になっても交通が完全に遮断される事態 |
|---|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 3,776m	富士山は静岡県と山梨県にまたがる独立峰であり、その標高3,776mは日本国内で最も高い地点です。選択肢にある8,848mは世界最高峰であるエベレスト（チョモランマ）の標高であり、日本の山々の高さと比較する際の指標としてよく用いられます。日本の国土は約4分の3が山地や丘陵地で占められており、富士山はその象徴的な存在です。
問2	答え 3 火山活動による陥没で形成された大きなくぼ地であり、その内部には集落や農地、鉄道などが広がっている。	阿蘇山周辺に位置するカルデラは世界最大級の規模を誇り、陥没した平坦な地形（カルデラ盆地）の中に、現在も多くの人々が居住し、農業や観光業が営まれているのが特徴です。他の選択肢にあるフィヨルド（氷河浸食）やシラス台地（火山灰堆積）、三角州（河川堆積）とは形成の仕組みが異なります。
問3	答え 3 等高線の間隔が狭い場所は、傾斜が急な斜面になっている。	地形図上で標高の等しい地点を結んだ線を等高線と呼ぶ。隣り合う等高線の間隔が狭いということは、短い水平距離の中で標高が大きく変化することを意味するため、その地点の傾斜が急であることを示している。逆に、間隔が広い場所は傾斜が緩やかであることを示す。
問4	答え 1 南東の季節風と台風の影響	日本の夏は、太平洋高気圧から吹き出す湿った南東の季節風が流れ込むため、太平洋側で雨が多くなります。また、夏から秋にかけては台風が接近・上陸しやすいため、降水量が年間で最も多い時期となります。対して、北西の季節風は冬に日本海側で雪を降らせる要因となります。
問5	答え 3 山脈で水分を失っているため、乾燥した晴天の日が多くなる	日本海で水蒸気を蓄えた季節風は、日本海側の山脈にぶつかって雪を降らせることで水分を放出します。そのため、山脈を越えて太平洋側に吹き下ろす風は非常に乾いた状態になり、冬の太平洋側では乾燥した晴天が続く原因となります。
問6	答え 2 日本海側のように冬に降水量が増えることも、太平洋側のように夏に降水量が増えることもなく、年間を通じて降水量が少ない。	瀬戸内の気候を他の地域と比較すると、季節による降水量の変動が小さいという特徴があります。日本海側の気候は冬に降水量（雪）が増え、太平洋側の気候は夏から秋にかけて降水量が増えますが、瀬戸内ではそれらの湿った空気が周囲の山地でカットされるため、年間を通じて降水量が100ミリメートル前後と低く推移します。この少雨という気候的背景から、かつては塩田による塩作りや、ため池を利用した農業が盛んに行われてきました。
問7	答え 3 周囲を高い山々に囲まれているため、湿った季節風が遮られ、熱がこもりやすい盆地特有の地形であるから	中央高地は周囲を険しい山脈に囲まれているため、海からの湿った風が遮られて降水量が少なくなります。また、盆地では空気の入替わりが少なく、夏は熱がこもって高温になり、冬や夜間は地表の熱が奪われる放射冷却が起きやすいため、気温差（年較差・日較差）が非常に大きくなる内陸性気候の特徴を示します。
問8	答え 1 1月の平均気温が0度を下回り、かつ月ごとの降水量が年間を通じて100mm前後で安定して少ない。	松本市が位置する中央高地は、日本海側の敦賀や太平洋側の延岡と比べて、年間を通じて降水量が極めて少ないという特徴があります。また、標高が高く内陸にあるため、冬の寒さは厳しく、1月の平均気温が氷点下になることも珍しくありません。日本海側の敦賀では冬の降水量が多くなり、太平洋側の延岡では夏から秋の降水量が多くなるため、消去法でも判別が可能です。
問9	答え 3 上流から流れてくる土砂を一時的にためたり、流れの勢いを弱めたりして下流の住宅地を守る。	砂防堰堤は、土石流の危険がある溪流などに設置される防災施設です。流れてきた土砂や岩石を堰堤の背後に堆積させることで、下流へ流れ出る土砂の量を調節し、破壊力を抑える仕組みを持っています。地形図などの地図記号でも、河川を横断するような形でその設置場所が示されることがあります。
問10	答え 3 津波が到達するまでの限られた時間内に、標高の高い山地へ移動することが困難な住民の安全を確保するため。	津波避難タワーの設置は、地形的条件と避難完了までの時間の関係から決定されます。地形図で等高線が密な山地が近くにあればそこが避難先となりますが、高齢者が多い地域や、道路が狭く移動に時間がかかる場合、山地へ辿り着く前に津波が到達する恐れがあります。そのため、浸水が想定される区域内であっても、迅速に登ることができる高層の避難施設を確保することが重要視されます。山地の方が浸水リスクが高いという説明や、タワーに減災効果を期待する説明は誤りです。
問11	答え 3 火山災害伝承碑	鹿児島県のように桜島などの活発な火山を有する地域では、過去の噴火による被害を風化させないための取り組みが重要です。このような碑は、過去の教訓を伝えることで将来の防災・減災に役立てる役割を担っており、近年では国土地理院の地図記号としても新設され、地図上でもその場所を確認できるようになっています。
問12	答え 4 大規模な自然災害が発生した際、一方が通行不能になっても交通が完全に遮断される事態	日本の東西を結ぶ交通の要所である東海地方では、南海トラフ巨大地震などの自然災害によって道路が寸断されるリスクが常に指摘されています。東名高速道路に加えて新東名高速道路を整備し、二重の交通網（ダブルネットワーク）を構築することで、仮に一方が被災して通行不能になっても、もう一方を代替路として活用し、物資の輸送や救急活動を継続できるようになります。渋滞緩和や移動時間の短縮も利点ではありますが、入試地理の文脈では「国土強靱化」や「リダンダンシー（冗長性）」の確保という防災上の背景が重要視されます。